

消化器内科医に聞く

第二消化器内科部長

かね たつひこ
金 辰彦

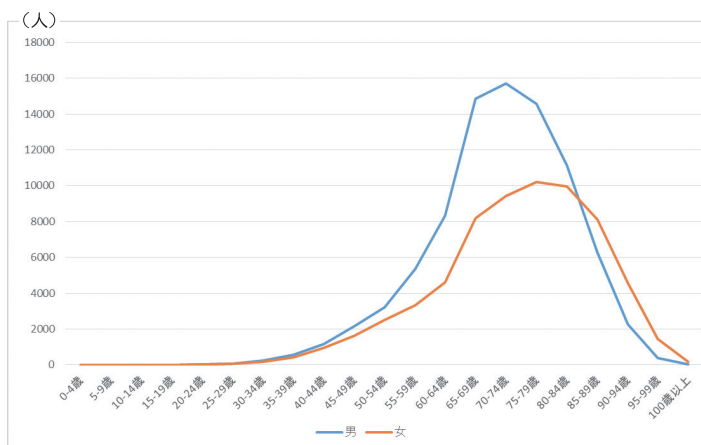


便潜血陽性といわれたら



大腸がん検診として便潜血検査が行われています。日本対がん協会が2017年度に全国の支部で行った大腸がん検診の結果では、受診者数は253万7,352人、うち精密検査が必要と判定された人（要精検者）は15万4,004人（要精検率6.07%）、この中で精密検査を実際に受診した人（精検受診者）は10万5,826人（精検受診率68.7%）。この検診を通してがんを発見された人の数は4,400人、その割合は0.17%でした。この結果から大腸がん検診を1万人が受診すると、607人が「異常あり」と判定され、精密検査（二次検診）を受けるように勧められ、そのうち精密検査を受ける人は、417人となります。そして、417人の中から17人に大腸がんが発見されるという割合になります。

また、大腸がんの罹患率（2018年）は120.4例（男性140.4例、女性101.4例）（人口10万対）で年齢階級別罹患率は表のようになります。（年齢が高くなり）60歳を超えるとぐっと罹患率は上がります。



精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。実際の検査の流れとしては、前日はトマトのような種、皮のある野菜類はさけていただき寝る前に下剤を服用します。当日は朝から腸管洗浄液である下剤を服用します。透明な便になり大腸を空にしたあとに検査可能となります。内視鏡を肛門から挿入し、直腸から盲腸までの大腸の全部位を観察し、がんやポリープなどの病変の有無を確認します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。当院ではCO₂送気で検査を行い、ポリープ切除した場合は一泊入院となります。当院で検査されたおよそ3分の1の方に大腸ポリープを認めました。

大腸内視鏡検査を怖がらずに、検査を受けるようにしてください。

参考：日本対がん協会ホームページ、がん情報サービス ganjoho.jp

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ（URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>）

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280（病院代表）

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。